

文部科学省 大学改革推進事業
大学教育再生加速プログラム

テーマⅡ **学修成果の可視化**

～入学から卒業まで質保証の伴った大学教育を実現するために～



大学教育再生加速プログラム

テーマⅡ 学修成果の可視化

入学から卒業まで質保証の伴った大学教育を実現するために

● 大学教育再生加速プログラムとは

大学教育再生加速プログラム (Acceleration Program for University Education Rebuilding: AP)(以下「AP事業」という。)は、国として進めるべき大学教育改革を一層推進し、教育再生実行会議等で提言された方針に合致した先進的な取組を実施する大学等を支援することを目的に、文部科学省が平成 26 年度から開始した補助事業です。

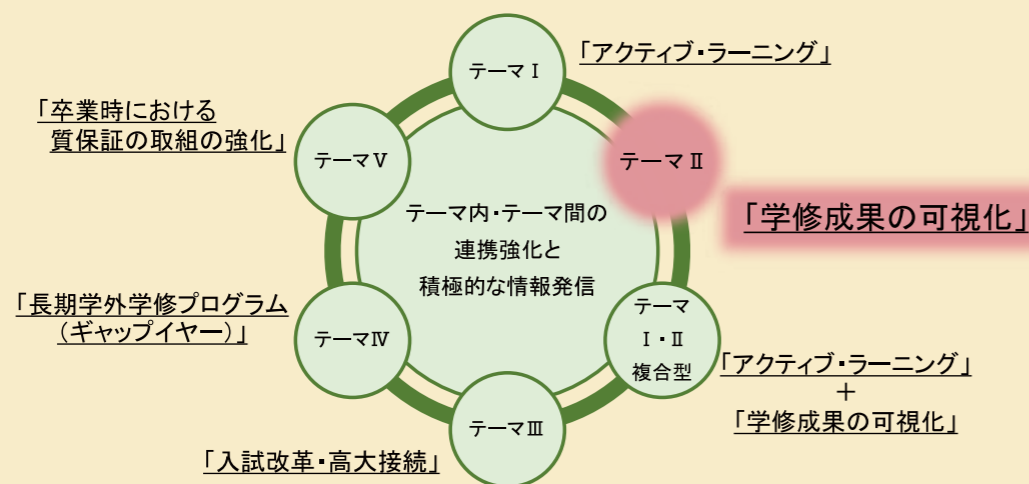
AP事業では、課題発見・探求能力・実行力といった「社会人基礎力」や「基礎的汎用的能力」などの社会人として必要な能力を有する人材を育成するために、“教育内容の充実”や“学生が徹底して学ぶことのできる環境の整備”に関して取り組んでいきます。

大学教育においては、各大学において一貫性をもって策定された3つのポリシー（卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー））の下、高等学校段階で培われた「学力の3要素」を更に発展・向上させる視点に立ち、社会と連携しながら、教育内容、学習・指導方法、評価方法等の質的転換を図ることが求められています。

このことを踏まえ、AP事業は平成 28 年度から「テーマⅠ：アクティブ・ラーニング」、「テーマⅡ：学修成果の可視化」、「テーマⅠ・Ⅱ複合型」、「テーマⅢ：入試改革・高大接続」、「テーマⅣ：長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）」、「テーマⅤ：卒業時における質保証の取組の強化」の6つのテーマにおける取組内容の普及を図り、成果の活用を一層促進するため「高大接続改革推進事業」を開始しました。「高大接続改革推進事業」は、平成 31 年度までを補助期間とし、現在全国で 77 校が採択テーマを軸に入口（入学）から出口（卒業）まで質保証の伴った大学教育の実現に向け、様々な取組を行っています。

本パンフレットでは、大学教育再生加速プログラム「高大接続改革推進事業」のテーマⅡ「学修成果の可視化」に採択された8校の取組を紹介します。

ー 大学教育再生加速プログラム(AP)「高大接続改革推進事業」イメージ ー



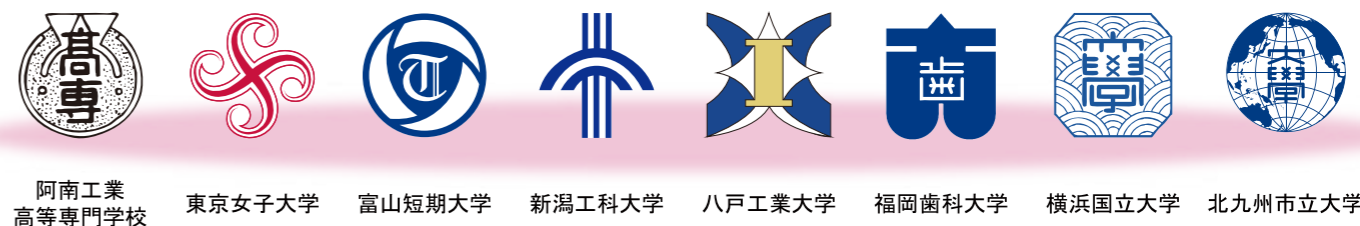
● テーマⅡ「学修成果の可視化」

テーマⅡ「学修成果の可視化」では、全学的教学マネジメントの改善またはそれを視野に入れた学部・学科における教学マネジメントの改善を図るため、各種指標を用いて学修成果の可視化を行い、その結果を基に内容・方法等の改善を行います。



● 「学修成果の可視化」あり方検討会議について

テーマⅡ「学修成果の可視化」採択校（8校）においては、採択校間の連携強化を図りながら、取組内容やその成果の活用を一層促進すると共に、全国の高等教育機関への積極的な情報発信を目的として「学修成果の可視化」あり方検討会議を設置しました。



阿南工業高等専門学校

到達目標を明確にした社会人力・人間力を培う自己実現学修の構築

● 学校の特徴

阿南工業高等専門学校は、昭和 38 年度に徳島県や地域産業界からの強い要望に応え、中学校卒業生を受け入れ 5 年一貫教育により実践的技術者を養成する国立の高等教育機関として設立された。本校は、創造技術工学科の下に機械、電気、情報、建設、化学の 5 コースを設け、実践力と創造力を併せ持った技術者を養成している。また、専門的な知識・技術の習得に加え、「真理・創造・礼節」を教育の基本理念として掲げ、人間教育にも力を注いでいる。教員と学生との真の信頼関係の上に立ち、特色ある教育・研究活動に取り組むとともに、本校が持つ人材や知的資産を生かして地域との連携にも積極的に取り組んでいる。



● 活動実績

本校は、クラウド型 LMS を全学の教育基盤として活用し、①社会人力・人間力の可視化、②ラーニング・ポートフォリオによる学修時間確保、③教員のティーチング・ポートフォリオおよびアカデミック・ポートフォリオ作成・活用、④教学 IR の活用を 4 つの柱として、学生が知的に人間として総合的に成長するための取り組みを実施している。

ICT 活用教育の推進を目的として全学導入した LMS の活用が広がっている。平成 28 年度は、教員ベースでも科目ベースでも平成 27 年度よりも LMS の利用が増えている。これに伴い、学生の授業外学修時間も徐々に増加傾向にあり、好循環になっている。以下に 4 つの柱の平成 28 年度活動実績について述べる。

(1) 社会人力・人間力の可視化

国立高専機構本部が推進するモデルコアカリキュラム（試案）が改訂されたため、社会人力・人間力の可視化を目的として昨年度開発したコンピテンシー評価ルーブリックを改訂し、後期授業における評価試行を教員 40 名に拡大して実施した。

(2) ラーニング・ポートフォリオ活用

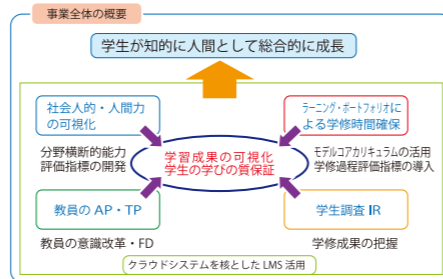
昨年度初めて実施した全学における学生の年度目標設定とその振り返り実施結果をもとに、今年度は後期始まりの時期における中間振り返りを追加して実施した。学生の設定した目標はクラス担任へフィードバックし、学習支援ミーティングや保護者懇談で活用してもらった。また、次年度のシラバスに記載する評価項目にはポートフォリオの項目を追加し、教員・学生ともにポートフォリオ活用を意識しやすくなった。

(3) 教員のティーチング・ポートフォリオ作成とアカデミック・ポートフォリオ作成

簡易版のアカデミック・ポートフォリオ作成を教員研修会において実施した。大多数の教員が作成し、アカデミック・ポートフォリオ活用を普及できた。

(4) 教学 IR

昨年に続き各種アンケート調査を実施し、ハイライトを A4 用紙 1 枚にまとめて昨年度との比較を行った。新入生アンケートは、入学直後に実施し、結果を速やかに 1 年生担任へフィードバックして学生指導に活用してもらった。なお、授業外学修時間は学生生活実態調査から算出している。



● みえてきた課題

現在まで、学修成果の把握に関する取組（学修行動調査、授業評価、学修到達度評価、企業向けアンケート等）を実施し、学修成果の可視化を試みてきた。今後は、これらの結果をもとにさらに一歩進めたコンピテンシーの可視化およびその活用に取り組まなければならない。

◎企業が求めており、かつ入社後の実務経験では向上が困難なコンピテンシー
主体性、責任感

◎正課科目において獲得しやすいコンピテンシー

論理的思考力、情報収集・活用・発信力、課題発見、主体性、自己管理、コミュニケーション

◎正課外活動において獲得しやすいコンピテンシー

主体性、コミュニケーション、自己管理、チームワーク、課題発見、責任感

正課外活動から「主体性」と「責任感」が育成可能であると考えられるが、正課外活動に取り組まない学生もいるため、正課科目においても「責任感」を育成できることが望ましい。正課科目において様々なコンピテンシーを育成するためには従来の一方的な講義形式の授業では難しく、学生が積極的に参加する授業形式が望ましい。本校ではこれまで教育改善に関する研修会等の実績を重ねてきたものの、全学的なアクティブ・ラーニング導入に関する取組は十分とは言えない。これから本校においては、アクティブ・ラーニングの普及も重要な課題としてみえてきた。



● 今後の取り組み

事業全体は順調に推進されており、大きな目標である学生の授業外学修時間は順調に増加している。今後の新たな取組としては、社会人力・人間力の可視化がある。平成 28 年度、国立高専機構の推進するモデルコアカリキュラムが改訂されたため、それに対応して本校が開発した社会人力・人間力を評価するルーブリックも改訂し、その運用を試行している。評価結果の可視化システムは、平成 29 年度に開発する予定である。ラーニング・ポートフォリオの活用に関しては、全科目においてシラバスに記載する評価項目に「ポートフォリオ」を追加し、ポートフォリオの評価を積極的に推進し、学生が普段の主体的な学習習慣を身につけやすくする。教員の FD 活動としては、ティーチング・ポートフォリオおよびアカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップを開催し、作成者の増加とその活用を推進する。IR の取組では、IR 担当者のスキルアップを目指し、コースごとの実践的な課題に関する分析結果を活用できるように進める。

平成 29 年度以降は、学生のコンピテンシー育成について正課科目・正課外活動における取り組みの普及・発展をめざし、新たにアクティブ・ラーニングの普及に向けて核となるインストラクター人材を育成し、全学的にアクティブ・ラーニングを推進する。

● 担当教員より一言

学修成果の可視化において、特に社会人力・人間力の可視化という難しい課題にチャレンジしています。学生が何事についても主体的に行動し、社会を生き抜く力を身につけられるよう努力しています。

● 連絡先

阿南工業高等専門学校 教育開発推進室
TEL : 0884-23-7216 FAX : 0884-22-4232
E-mail : ap-office@anan-nct.ac.jp

東京女子大学

リベラル・アーツ教育のアセスメント・モデル構築による学修成果の向上と可視化

● 学校の特徴

リベラル・アーツ教育で育てる女性のリーダーシップ

東京女子大学は1918年の創立以来、キリスト教主義に基づくリベラル・アーツ教育により「専門性をもつ教養人」を育成してきました。全学共通カリキュラムと学科科目を二つの柱とし、全学共通カリキュラムでは幅広い視野と基盤となる学力を身につけ、学科科目ではその分野における問題の捉え方、考え方を体系的に学び、深い洞察力と的確な判断力を身につけます。

創立100周年を迎える2018年度には、国際性、女性の視点、実践的な学びを重視した新しい教育を全学的に展開し、学ぶことを学び、自ら考え、知識・能力を行動に移すリーダーシップを身につけた女性を育成します。



● 活動実績

本事業は、本学のリベラル・アーツ教育の成果について、専門知識、汎用的能力、態度・志向の面から学修成果の測定を行い、その結果を可視化して、リベラル・アーツ教育のアセスメント・モデルを構築し、教育改善を恒常的に図るしくみを作ること为目标としています。

アセスメント・モデル構築の準備段階として、本学のリベラル・アーツ教育の成果を把握するために、直接的指標（GPA、TOEFL ITP等のデータ分析、汎用的能力テストの実施等により得る）と間接的指標

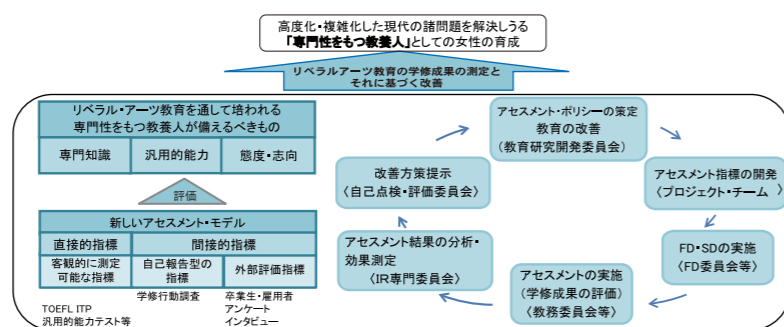
（学修行動調査、卒業生アンケート等の実施により得る）について、IR専門委員会を中心に分析を行いました。

教育研究開発委員会では、アセスメント・ポリシー※を策定し、指標の開発を開始しました。事業を開始した平成26年度より、さまざまな指標を得るために、新たな外部テストの導入、卒業生や企業への調査等を実施しています。学生に対しては、事業開始前より実施しているTOEFL ITP、本学独自の学修行動調査の他、新1年次対象に汎用的能力を直接的指標により測定する外部テスト（PROG）、1、3年次学生対象に間接的指標により測定する教学比較IRcommonsによるALCS学修行動調査を実施し、PROGについては学生個々にテスト結果をフィードバックしています。さまざまな指標の分析を進めることにより、本学学生に強化が必要なスキル・能力が明らかとなり、今後の教育改革に活かす取り組みを始めました。

学修成果のアセスメントの基礎となる成績評価については、平準化・厳格化のため、平成27年度には成績評価のガイドラインを導入し、現在その実効性について検証しているところです。また平成28年度からは、進級条件科目および卒業研究についてルーブリック評価の試験的運用を開始しました。成績評価基準の可視化が進むことで、学生が自らの学修の現状

を自覚し、意識的に不足部分に取り組み、学修を深めることが可能となると同時に、授業方法やカリキュラム改善に資する効果も期待されます。さらに、本事業の認識共有のためのFD・SD研修等を実施したことにより、学修成果や質保証についての教職員の意識の改善が図られています。

※アセスメント・ポリシー：東京女子大学は、建学の精神に基づくリベラル・アーツ教育の成果について、多角的観点から複数の指標に基づいて評価を行う。上記の評価は、エビデンスに基づいた教育改善を継続的かつ効果的にすすめることを目的とするものである。



● みえてきた課題

本学におけるAP事業は、全学的な取り組みとして実施されています。そのため、学修成果を測定するための基本的な調査は、全学生を対象に実施しています。全学生を対象とすることのメリットはとて大きなものですが、これを実現するためには全学生が回答できる環境を整え、協力を依頼しなくてはなりません。現状でも多くの学生に協力していただいておりますが、この状況を維持し、さらに参加率を高めるための工夫が必要です。

また、計画当初は各種調査の結果は教職員へフィードバックし、教育の改善に繋げる仕組みを作ることを目指していましたが、実際に事業を進めてみて、これだけの多くの調査、測定に協力して下さっている学生へのフィードバックについても効果的な方法を検討する必要がありますと感じています。学生へ有益なフィードバックをすることを通して、各種調査への参加率も高められるのではないかと思います。

最後に、本事業を推し進めるためには、多くの教職員の協力が不可欠なことは言うまでもありません。学内でのAP事業の認知度は高まってきていると思われませんが、より多くの方に関心を持っていただき、成果の活用に結びつけることができるよう、適切な情報発信が必要だと感じています。



● 今後の取り組み

各種調査への学生の参加率を高めるために、さまざまな形で学生への周知徹底をはかっていきます。また、学生にとって参加しやすい日程を組むといった点についても検討を続けていく予定です。2016年度後期に実施したWebによる学修行動調査では、学生への参加協力の効果的な呼びかけのタイミングを探り、前年度よりも参加率を上げることにつながりました。個別の工夫がもたらす効果は小さいかもしれませんが、それらの積み重ねで効果を上げることを目指します。

教職員、学生のみなさんへのフィードバック、ならびに情報発信については、効果的な方法を現在検討中です。これまでは経年比較をするためのデータがそろっていませんでしたが、来年度からはそのような比較分析も可能になり、本格的に学修成果の検討が始められます。また、各種指標を組み合わせた検討も本格化する予定です。これらの分析自体がAP事業の中心的課題の1つですが、それに加えて、それらの検討結果をわかりやすく発信することで、より多くのみなさんに関心をもっていただけるようにしたいと考えています。具体的な方法は現在検討中ですが、FD、SD研修にとどまらず、リーフレットの作成など、複数の方法を用いて情報発信に取り組む予定です。さらに最終年度には教育再生に資する成果を広く発信できることを目指しています。

● 担当教員より一言

AP事業に関わる前は、個々の授業の到達目標の達成については検討していたものの、正直なところ、大学全体の教育目標と照らして考えるという機会はあまりありませんでした。また、関心を向ける対象も自分の所属専攻のことに限定されていました。今回、大学全体、ひいては大学教育のありかたについて今までとは異なった角度から考えるたいへん貴重な機会をいただきました。課題も多く、手探りの部分もありますが、みなさんのお力添えをいただき、本事業を推進して行きたいと考えています。

● 連絡先

東京女子大学 大学運営部大学改革推進課
TEL : 03-5382-4938 FAX : 03-3395-1037
E-mail : ap@office.twcu.ac.jp

富山短期大学

「学修成果の可視化」による教育の「質向上」と「質保証」を目指して

● 学校の特徴

昭和 38 (1963) 年、富山短期大学の前身である富山女子短期大学は、「人間愛を基調にした高い知性、広い教養、そして健全にして豊かな個性と、社会性に富む調和のとれた全人的な婦人形成」を建学の基本として設立されました。

以来、時代の変化と社会のニーズに対応しながら教育内容の充実を図り続け、現在は食物栄養、幼児教育、経営情報、福祉の4学科と専攻科食物栄養専攻を擁する総合短期大学となっています。

今日も変わることなく、豊かな人間性を備え、実践的な知識・技能とそれを現実の課題に応用できる実践力を身に付けた専門職業人材を育成し、「地域を活かし、地域を創り、地域に生きる」地域基盤人材を富山の地に送り出すことを使命としています。



● 活動実績

平成 24 年度に補助金を得て開発した、授業・学修支援システムである「Web シラバス・システム」をプラットフォームとして、この AP 事業では「学修成果」を可視化し、教育の「質向上」と「質保証」に向けた取組を行っています。平成 28 年度までの主な活動実績は次の通りです。

1. 「学修成果評価システム (LOAS (Learning Outcomes Assessment System))」の構築

これは、教員が各授業科目の「学修成果」別到達度の成績評価を入力するシステムです。学生による「学修成果」別到達度の自己評価と併せて、授業改善・学修改善・教育改善に役立てています。

2. 各種「学生アンケート」の実施

それまでの「(毎回の)授業アンケート」に加えて、平成 27 年度から、Web シラバス・システム上で、「(期末の)授業アンケート」、「新入生アンケート」、「学修行動・生活調査」(1 年後期・2 年前期・卒業時)を実施し、授業改善・学修改善・教育改善に役立てています。

3. 第三者評価を PDCA に反映

平成 26 年度に、学識経験者やステークホルダーから成る「富山短期大学外部評価委員会」を設置し、平成 27 年度には、「卒業生アンケート」、「就職先アンケート」を実施しました。これらの第三者評価を教育改革・改善のための PDCA に反映しています。

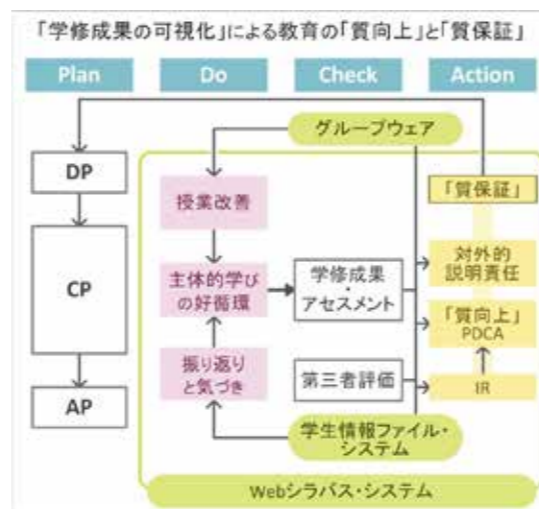
4. 「学生情報ファイル・システム (SIF(Student Information File))」の構築

平成 28 年度に「学生情報ファイル・システム (SIF)」を構築し、「学修成果」に係る各種情報を学生にフィードバックすることにより、学生の「振り返りと気づき」を促し、「主体的な学び」を育みます。

5. グループウェアの導入による教職協働の推進

「学修成果」に係る各種情報を速やかに教職員間で共有し、教職協働による教育改革・改善を推進します。

平成 28 年度には、FD / SD の成果を取りまとめた『授業改善事例集』を作成し公表しました。



● みえてきた課題

「学修成果の可視化」による教育の「質保証」とは、次の 2 点に他なりません。第一に、授業改善・学修改善・教育改善の PDCA サイクルを実質化して教育の絶えざる「質向上」を図ること。第二に、地域・社会から求められている教育の成果に関する対外的「説明責任」を果たすこと。

1. 「学修成果」指標の信頼性の向上と評価手段・方法の精緻化

対外的「説明責任」をきちんと果たし、本学の教育に対する地域・社会からの信頼を一層高めるには、「可視化」する「学修成果」指標の信頼性を高めること、すなわち「学修成果」の精緻な評価手段・方法の開発・工夫が必要となります。

2. 学生の「主体的な学び」を促すための環境整備

教育の「質向上」を図る上で必要な課題は、学生の「主体的な学び」を促すことです。

「主体的な学び」とは、学生が絶えず、自らの学修プロセスならびに日々の学修内容を「振り返り、気づく」(リフレクション)習慣と方法を身に付けることに他なりません。「振り返りと気づき」を促すためのアクティブ・ラーニング型授業を支援するための学習環境は整いつつあります。そこで、「学生情報ファイル・システム (SIF)」を活用して「学修成果」に関する様々な情報をフィードバックし、「振り返りと気づき」を促す仕組みを構築することが課題です。

3. 教育の「質向上」のための IR の本格的推進

システムから得られる各種データをパネルデータとして活用し、効果的な入学者選抜方法の在り方、学修支援の在り方、就職支援の在り方等についての検討を始めることが喫緊の課題です。



● 今後の取り組み

平成 28 年度をもって、Web シラバス・システムをプラットフォームとする、「学修成果の可視化」のためのシステムの開発・構築が一段落します。平成 29 年度からは、これらのシステムを通じて得られた各種データを活用して、教育の「質向上」と「質保証」のための PDCA サイクルの実質化・改善活動の本格化と、対外的「説明責任」のためのエビデンスの整備を図っていきます。

1. 「学修成果」指標の信頼性の向上と評価・アセスメント手段・方法の精緻化

対外的「説明責任」を果たし、地域・社会からの信頼を一層高めるために、適切な「学修成果」指標を検討し、「学修成果」の評価手段・方法の精緻化と共有化を進めます。

2. 学生の「主体的な学び」を喚起する工夫

学生の「主体的な学び」を促す上で効果的な「アクティブ・ラーニング型授業」の手法・工夫等について、FD / SD 研究会での議論を深めると共に、『授業改善事例集』を毎年度作成して教職員間で共有する一方、「学生情報ファイル・システム (SIF)」の活用方法の検討を本格化します。

3. IR の本格的推進

「学修成果」・「学修行動」等に関するデータをパネルデータとして活用し、効果的な入学者選抜方法の在り方、学修支援の在り方、就職支援の在り方等についての検討を本格化します。

● 担当教員より一言

もとより、「学修成果の可視化」は、本学の教育の「質保証」を目指すものです。授業改善・学修改善・教育改善の PDCA サイクルを実質化して教育の絶えざる「質向上」を図り、地域・社会に対して教育の成果に関する対外的「説明責任」を果たし、信頼を一層高めることが目的です。

そのために何よりも大切なことは、学生自身に「学修成果」を可視化して、学生の「主体的な学び」を促すことです。自律的な学習者として、生涯に亘って多様な人々と共に学び合い学び続ける力こそが、自らの人生を切り拓いていく上での大きな力となるに違いありません。

● 連絡先

富山短期大学 事務部庶務課
TEL : 076-436-5146 FAX : 076-436-5444
E-mail : ap@toyama-c.ac.jp

新潟工科大学

学生の夢を叶え、質保証するための学修成果の可視化

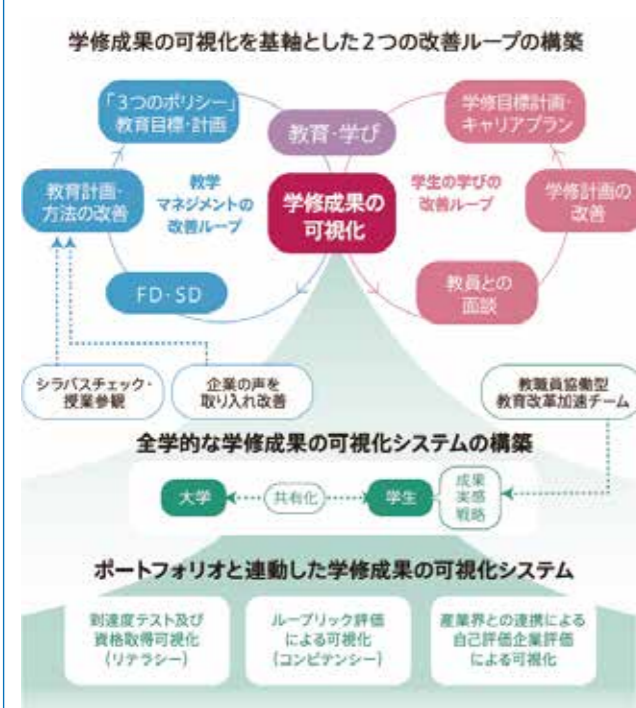
● 学校の特徴

新潟工科大学は、新潟県全域での産業活性化や地域社会で活躍する中核的技術者を地域で育成したいとの強い考えの下、地元柏崎市及び刈羽村を始め多くの市町村、新潟県民そして新潟県内企業 3000 社を超える寄付金を基に設立された新潟県内唯一の私立工科大学です。

本学では「企業がつくったものづくり大学」という設立の経緯を常に意識し、教育の方向性に地域や産業界のニーズ・視点を取り入れていることが大きな特徴です。カリキュラムの特徴の一つとしては産学協同科目を配置し、工学プロジェクト（企業課題解決のための PBL 実習）等の実践的な教育を行っています。



● 活動実績



■ 産業界のニーズを反映した取り組み

● 企業が求める基礎力の調査の実施
多くの企業が本学で学生と直接交流する「対話型企業技術・要素会」の機会を利用し、企業にアンケートを実施しています。企業が求める基礎学力と社会で活躍するための力（人間力）の回答を業界別に分析し、その結果を用いて A P 事業の取り組みを進めています。

● 「企業が求める基礎学力到達度テスト」の実施
企業が求める人材を輩出するため、企業への調査結果をもとに工学の基礎となる分野として、数学、物理、及び英語の基礎学力のテストを作成し実施することで、卒業までの学力変化を可視化しています。

● 「人間力セルフチェック」の実施
本学では将来仕事に携わる上で必要な人間力として、「NIIT 人間力」（挑戦力、創造力、コミュニケーション力）を設定しており、学生は各自の人間力を自己評価しています。

人間力の自己評価結果と、企業が求める基礎学力到達度テストの結果を可視化することにより、学生自身が身に付けなければならない力を強く認識できる仕組みとしています。その結果はポートフォリオとして蓄積され卒業まで継続して活用しています。

■ 産業界のニーズと学修成果を活用した学生指導の実施

産業界のニーズと可視化した学修成果をもとに、担当教員との面談を通じて、入学した早い段階から産業界や地域の求める人材とはどのような人材なのかを理解しながら、自身の進路を見出すことが可能となっています。

■ 学修成果の可視化システム「達成度自己評価システム」の構築

ディプロマポリシーとの関連性を明確にし、「達成度」は、人間力、到達度テスト、将来の夢・目標、自己評価、成績など、項目別にレーダーチャートやグラフでビジュアル化しています。そして、レーダーチャートによって自己評価による間接評価と成績による直接評価が対比され、ディプロマポリシーの各項目をどのくらい達成したのかが分かりやすく示されます。自分がどの項目を得意とするのか、また、どの項目が不得意で克服する必要があるのか、学生自身がイメージできるようにしています。学生は達成度自己評価システムで、これら情報によって自分の力を確認しながら、PDCA サイクルによる学びの改善ができるようになっていきます。具体的には、学期の始めに学びの目標をたて、目標達成に向けた学びを実行し、学期の終わりに学びによって身についた力を確認して、次学期の学びの改善に役立てています。

● みえてきた課題

■ 企業が求める基礎学力到達度テスト

● 企業が求める基礎力の調査の実施

業種別に一定のデータを取ることは出来たことから、今後は本学が持つ各種データと照らし合わせた分析や企業の規模や地域別分析などデータの分析を進めます。

■ 達成度自己評価システム

システムを構築し、全員が活用を始めていますが、学生と教職員がシステムを使い込み、更に使い易いシステムに改善します。

■ 産業界のニーズと学修成果を活用した学生指導の実施

教員が1学年あたり数名ずつを担当する「助言教員制度」を利用して、個別面談により学習指導を実施していますが、学生にはこれまで以上に具体的なキャリアプランを描かせ、夢を叶えるための目的意識を持った学修という事を明確にすることが必要です。また、システムをうまく活用し、今まで以上に面談スキルの向上を図ります。



● 今後の取り組み

これまでの A P 事業の取り組みを通じて、学修成果を可視化する仕組みは整備できました。今後はこれらの仕組みを活用して学生の力を最大限伸ばし、産業界や地域が求める人材を育成するため、当初計画に基づき、以下の2つの改善ループを展開していきます。

① 学修成果の可視化を基軸とした「学修目標・キャリアプラン → 学び → 学修成果の可視化 → 面談（きめ細かい学生指導） → 学修計画の改善」という学生の学びに関するループ

② 「3つのポリシーを基本とした教育目標・教育計画（シラバス） → 教育 → 学修成果の可視化 → FD、FSD（評価） → 教育計画・教育方法の改善」と言う大学全体の教学マネジメントのループ
特に教員側はディプロマポリシーとの整合性の観点から常にループを回すよう取り組みます。

また、本学ではこれまで地元の高等学校と連携しながらさまざまな取り組みを進めてきています。これを礎として「高大接続」をさらに加速し、アドミッションポリシーの見直しを始めとした高大接続改革にも積極的に取り組み、地域と一体となった教育改革を進めていきます。

● 担当教員より一言

「批判的にものを見る」は、オリジナリティの第一歩。さらに気づいてほしいのは「提案することの大切さ。不便だね、ダメだね、だけでなく、じゃあこうしようよ、といえるかどうか。そこに、コンピテンシー（能力、適格性）の根幹があるのでは、と考えています。学生が日々工学を学びながら「達成度自己評価システム」を使い込み、自分たちでこのシステムをより良い形に成長させていく。そうしたことが、結果的に学生たちのコンピテンシーを伸ばすきっかけになれば。そう思いながら日々、チームの仕事に取り組んでいます。

● 連絡先

新潟工科大学 教育改革加速チーム
TEL : 0257-22-8101 FAX : 0257-22-8123
E-mail : ap@niit.ac.jp

八戸工業大学

「良き技術は、良き人格から生まれる」に基づき、地域を支える高度な職業人を育成

● 学校の特徴

八戸工業大学は、昭和47年4月1日に開学し、現在、工学部5学科、感性デザイン学部1学科、大学院工学研究科3専攻を擁する北東北唯一の工学系高等教育機関です。教育理念である「良き技術は、良き人格から生まれる」に基づき、高度な専門知識とともに豊かな人間性と総合的な判断力を有する有為の人材を養成しています。このような人材育成を実現するために、各学科には選択可能な合計13の専門コースが配置され、専門知識のみならず社会人として求められる人間力や汎用的能力を養成するカリキュラムが用意されています。地域に根差した教育による人材育成と研究活動を通じて社会貢献することが本学の使命と考えています。



● 活動実績

本学ではこれまで、社会的要請に応える学修成果の質保証システムの構築を目指して7つの取組みを実施しています。以下に主な活動実績と共に示します。

- 取組①:** 高校教育から大学教育へスムーズな接続ができる教育・指導体制の改善
 - ・入学前交流講座実施方法改善の一環としてe-ラーニングシステムの部分導入
- 取組②:** 初年次教育の充実：自ら学ぶ習慣を持つ学生の育成
 - ・初年次からのラーニング・ポートフォリオの指導による学びの振り返り習慣の醸成
 - ・クリッカー等の双方向型教育機器を用いた教育実践の試行
- 取組③:** 社会状況に伴って変化する学生の希望分野に柔軟に対応できる教育体制の構築
 - ・3ポリシーの明確化とカリキュラムマップの作成
 - ・学科の次期カリキュラムにおいて地域の特色を活かした複数の専門コースを検討
- 取組④:** 学びの過程における達成度評価システムの構築
 - ・学修成果可視化教学システムを構築するための成績評価データベースシステム、授業評価データベースシステム、達成度評価データベースシステムの準備
- 取組⑤:** キャリア教育の徹底による良き職業人の育成
 - ・早期の動機づけを目的としたインターンシップ、企業見学等の強化
 - ・次期カリキュラムの検討過程におけるキャリア教育内容の議論
- 取組⑥:** 学生・社会の要望を反映した教育改善体制の構築と実践
 - ・卒業生、就職先への調査とその評価結果の関係部局へのフィードバック体制構築
- 取組⑦:** 教育改革加速
 - ・全学的な教学マネジメントを推進するための教育改革委員会および同専門委員会の設置
 - ・ティーチング・ポートフォリオの検討と運用



● みえてきた課題

学修成果の可視化と密接に関わる活動実績、取組④では、教育理念「良き技術は、良き人格から生まれる」に基づく教育目標を具体化して、学生個々の達成度を評価できる仕組みを構築するとともに、それを教育プログラムの改善に繋げていくこととしています。本学ではその評価・改善手法の確立にあたり、学士力や社会人基礎力、JABEE基準等も踏まえて、大学教育目標（ディプロマ・ポリシー）の属性として全学共通の20個の修得因子を抽出しました。そして、学期末達成度評価の実施を通じて教育課程の学修成果を可視化し、それを基に教育改善活動に着手しています。ここでは、各修得因子に対して学生に自己の達成度をアンケート形式で主観的に評価させています。

本学で導入した20の修得因子は、主に授業によって身に付くと考えられる因子と、課外活動等も含めた授業以外の要素も大きく関与していると考えられる因子に大別されます。前者の修得因子については、学生の成績をベースに達成度を定量化できる可能性があります。しかし、後者の比較的広範囲な修得因子および心理的側面が大きな修得因子については、主観的評価において曖昧さや個人差を低減するとともに、達成度の確度を向上させる観点から学生の達成度評価データの質と量を整えることが重要と判断しています。加えて、授業等の教育課程による教育成果のみならず、部活動やサークル活動等の正課外の教育成果、資格取得やアルバイト等の自主的な学修成果も含めて学生の総合的な学修成果を評価し、個別のキャリア指導に活用するための手法を検討することも課題となっています。

修得因子	
1. 寛容心	
2. 感動する心	
3. 主体性	
4. 人間性理解力	
5. 自己管理能力・ストレスコントロール力	
6. 倫理観・規律性	
7. 日本語コミュニケーション・スキル	
8. 外国語コミュニケーション・スキル	
9. チームワーク力	
10. リーダーシップ力	
11. 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	
12. 読解力	
13. 情報リテラシー力	
14. 論理的思考力	
15. 問題解決力	
16. 専門基礎学理の理解力	
17. 専門基礎学理の高度応用能力	
18. 継続的学習力	
19. 市民としての社会的責任感	
20. 異文化理解力	

● 今後の取り組み

本学では、独自の学修成果可視化教学システムの構築を進めており、その中核となるのが成績評価データベースシステム、授業評価データベースシステム、達成度評価データベースシステムです。これら教学情報（IR）を教員あるいは必要に応じて学生が利用しやすい環境を整備し、ラーニング・ポートフォリオおよびティーチング・ポートフォリオの運用を充実したいと考えています。その一環として、学修成果の質保証の観点から学生の進路実績と卒業生の採用企業からのより客観的な達成度評価データを収集・分析し、学生が初年次から段階的なキャリアプランニングを行うための有益な情報をフィードバックできるよう改善していきたいと考えています。これによりラーニング・ポートフォリオの利用促進や教員のキャリア指導の実質化が期待されます。また、教員と学生の双方向性を確保しつつ、能動的な学修を促す目的からe-ラーニングも含めたアクティブ・ラーニングを効果的に授業に取り入れるための検討を行う予定です。さらに、科目の成績評価の可視化を支援するため、教員が使用しているループリックの全学データベースを構築・共有し、ティーチング・ポートフォリオとの有機的な連動により授業改善を加速させたいと考えています。

これらの取組みを通じて、社会的要請に応えられるよう学生側と教員側の双方でPDCAサイクルが展開される仕組みを開発します。

● 担当教員より一言

本事業の目的は、これまでの教育活動の改善を図り、教育課程の体系化、学生自らが自身の学習目標の設定・達成度評価を行うシステムを整備しつつ、変化する社会の中で活躍できる良き職業人の育成を実現するための教育体制を構築することにあります。その原動力となるのが学修成果可視化教学システムを通じて蓄積された教学情報（IR）を基に推進される全学的な教育改善活動と考えています。そのためには全学の教職員が建学の精神・教育理念等を再確認し、社会的要請を踏まえて目的意識や目指すべき方向性を共有することが不可欠と考えています。

● 連絡先

八戸工業大学 AP事業推進室
 TEL : 0178-25-8163 FAX : 0178-25-1966
 E-mail : barajima@hi-tech.ac.jp

福岡歯科大学

『アウトカム基盤型教育を取り入れた学修成果の可視化』

● 学校の特徴

本学は福岡市西部に位置し、豊かな自然と都心の便利さを併せ持つ、勉学に最適な環境の中にある。昭和48年4月の開学以来、40数年を経て約4000名の卒業生を輩出し、歯科医学教育・研究の場として成長してきた全国でも有数の私立歯科大学である。本学の教育目標は、「教養・良識および国際感覚を備えた優秀な歯科医師を育成し、社会福祉に貢献するとともに歯科医学の進展に寄与すること」である。超高齢社会の到来、病気の種類・頻度の変化、患者さんのニーズの多様化等に対応するには、治療の対象を歯のみに限定せず、口腔機能や全身状態並びに患者さんの気持ちを十分理解して医療を行うことが必須条件である。本学は「歯科医学」から、口腔を一つの臓器とみなしその機能全体を向上させる「口腔医学」への脱皮を目指し、各方面に向け発信している。



● 活動実績

授業科目の行動目標をディプロマ・ポリシー（DP）および学士力に分類するとともに、授業科目の行動目標、教育内容、評価方法の整合性を検証し、評価基準の平準化を行うことにより、それぞれに対応した評価指標を作成し、学修成果の可視化を行う。DPおよび学士力に対する学生の到達度を可視化することで、各学生の学修成果を把握し、それに基づいた教育内容、方法等の改善を行う。

【平成26年度】

教育支援・教学IR室および教育支援・教学IR室運営委員会 新設
内部評価委員会 設置
先行事例調査 実施
FD・SD ワークショップ 開催
新シラバス基本レイアウト 考案
在学生、卒業生、地域・企業ステークホルダー調査 実施
取り組み内容 情報公開（HP 開設）

【平成27年度】

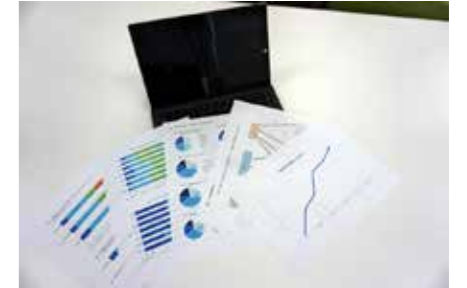
コンピテンス・コンピテンシーの策定（アウトカム基盤型教育の導入）
学修成果の数値化方法 考案
新シラバス基本レイアウト 修正
シラバスの電子化（e-シラバス）
先行事例調査 実施
在学生調査 実施
内部評価 実施
外部評価委員会 設置
FD・SD ワークショップ、FD 講演会 開催

【平成28年度】

平成29年度 新シラバス入力・作成（試験運用準備）
外部評価 実施
FD・SD ワークショップ、FD 講演会 開催
在学生調査 実施

● みえてきた課題

- ①当初は科目の行動目標達成が、紐付けした DP・学士力の一部分達成に寄与する、すなわち DP・学士力に複数の行動目標が紐付く構造を考えていた。しかし、DP は抽象的・概念的で、学生が達成を目指す能力として具体性に欠け、目標となりにくい点が問題と考えられた。そこで従来の教育にアウトカム基盤型教育の考え方を取り入れ、行動目標と紐付ける指標を具体的な能力を示すコンピテンス・コンピテンシーとする見直しを行い、指標としてはコンピテンス・コンピテンシーに複数の行動目標が紐付く構造を考えた。この科目の行動目標に紐付けしたコンピテンス・コンピテンシー、学士力を各科目評価を用い数値化・集計し、学生の獲得能力として可視化するが、可視化した能力到達度と学生の能力が乖離している可能性がある。また、学士力4（総合的な学習経験と創造的思考力）は、学士力1・2・3の総和としているが、学士力4は、自ら課題を発見し解決する力、学士力1・2・3は教え込んで身に付けさせる力であり、性質が異なるため、学士力1・2・3の総和では獲得能力を表現できない可能性がある。
- ②コンピテンス・コンピテンシー、学士力、科目の行動目標と色々な指標が存在し、学生が何をを目指すのか整理できない状況に陥る可能性がある。
- ③重要であるがカリキュラム上の単位数は少ない科目の場合、単位数を基準に能力を数値化すると、関連する能力が過小評価される懸念がある。



● 今後の取り組み

- ①考案した数値化・集計による学修成果の測定は、可視化した能力到達度と学生の能力が乖離していないか評価検証する必要がある。また学士力4は、学士力1・2・3の修得過程で修得させる教育を行うことで、修得可能と考えているが、学士力1・2・3の総和では測定できない可能性もあり、試験運用しながら評価検証を行う。
- ②コンピテンス・コンピテンシー、学士力、各科目の行動目標と様々な指標が存在するので、可視化を行いながら各指標の関連付け・整理が必要である。
- ③単位数を基準に能力を数値化すると、関連する能力が過小評価される懸念がある。修得可能な授業科目の行動目標としての追加や、科目新設等について検討が必要である。このように試験運用・修正・変更を行い、アウトカム基盤型教育の考え方を取り入れ、学生の修得能力を学修成果として可視化する。これに基づき PDCA サイクルをまわし、教育内容・方法等の改善を全学的に展開することで、大学教育の質的転換と内部質保証を行い、学生が主体的に学ぶことができる環境作りを行う。

● 担当教員より一言

コンピテンス・コンピテンシーは知識・技能・態度を包含した能力をイメージして表現されることが多く、評価が難しい。本学では、各行動目標の評価をコンピテンス・コンピテンシーおよび学士力に集約する方法を考案した。このプロセス基盤とアウトカム基盤型教育を併せ持つ考え方は前例のない取り組みである。試験運用で妥当性を検証し、学生の修得能力を正確に可視化しよう修正を行う必要がある。常に「学生の学修意欲向上につながる学修成果の可視化とは何か」を意識し、本学に最適な学修成果の可視化を追求したい。

● 連絡先

福岡歯科大学 教育支援・教学IR室
TEL：092-801-0448 FAX：092-801-0427
E-mail：ir@college.fdcnet.ac.jp

横浜国立大学

学生 IR に基づく「学生の主体的な学びのデザイン」

—日本社会が直面する諸課題の解決に国際的視点から貢献するイノベティブな人材育成を目指して—

● 学校の特徴

横浜国立大学（YNU）は、文明開化の発祥の地であり、高度の産業が集積する横浜に生まれ育った都市型高等教育機関として、自由で高い自律性を保つ堅実な学風の下、《実践性》《先進性》《開放性》《国際性》を精神とする教育と研究により、社会の中核となって活躍する人材を育成し、社会を支える研究成果を発信して社会に貢献しています。

人文・社会系学部と理工系学部が一つのキャンパスにある優位性と多くの留学生が学ぶ YNU の特色を活かし、文理融合と分野横断を追究するとともに、グローバルな視座を有しローカルな課題に対応できる人材を育成しています。



● 活動実績

YNU では《授業設計方法と成績評価の改善》を大学教育改革の基盤と位置付け、その教育改革の両輪として《学士力》と《就業力》の可視化に取り組んでいます。これら可視化された教育成果を学生ポートフォリオに組み入れ、「学生自らが学修成果を把握し、次の学びを主体的にデザイン」できる行動様式に変容させ、グローバル新時代に活躍できる創造性あるイノベティブな人材育成を目指して AP 事業を進めています。

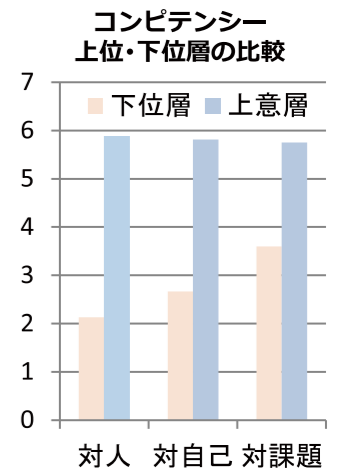
- **授業設計方法と成績評価の改善**：授業設計と成績評価ガイドライン（H27 年度）により成績評価基準を全学で統一し、電子シラバスの改修とともに授業別ルーブリックを導入、科目ナンバリング（H29 年度）を導入
- **学士力の可視化（教学・学生 IR システム拡充）**：学生の学修行動の特徴と課題を把握する学生 IR 調査に加え、教員への成績評価分布表示システムを導入
- **就業力の可視化（キャリア教育の再体系化）**：就業力アセスメント結果に基づき H28 年度にキャリア教育科目の再体系化を完成。主体的な学びの姿勢、対人基礎力を強化するアクティブ・ラーニングを推進



● みえてきた課題

YNU では、H28 年度より学生にフォーカスした入学選抜から卒業後まで一貫して見通す Institutional Research 《学生 IR》による新たな取り組みを開始しました。

- **入口の課題：主体的な学びの姿勢の醸成**：将来進路の見通しがあいまいな学生は大学で学ぶ目的意識も希薄であり、学業と職業の係わりを意識させ主体的な学びの姿勢を醸成するカギ
- **出口の課題：就業力（特に対人基礎力）の強化**：コンピテンシーの伸長が学年進行に伴い二極化する傾向があり、その主要因である対人基礎力を伸ばすこと
- **学業、学生生活に不活発な学生の意識改革**：授業や実験に出ている時間が短い学生は部活動・同好会の参加時間も短い。このタイプの学生の意識と行動を変え、学修時間を増やすこと
- **授業設計**：定期的にレポートや課題が課される頻度が多いほど、授業外学修時間は増加する。ルーブリックによる意識付け、適切な課題や宿題の設定とアクティブ・ラーニングの推進で活性化



● 今後の取り組み

- YNU では、本取り組みの完成年度（H31 年度）に向けて、
- ① 授業設計方法と成績評価の改善（PDCA サイクルの実質化）、
 - ② 学士力の可視化、③ 就業力の可視化による 3 つの学修成果として蓄積された教学情報データを統合し、学生ポートフォリオシステムの再構築を目指します。
- **ラーニングポートフォリオの要素を組み入れた学修推移チェックシステムの構築**、海外での学修体験や国内外インターナシップ、語学学修履歴情報等の機能追加
 - **キャリアデザインファイル**：学生が随時自己チェックできる「就業力自己チェックシート」を導入予定
 - **授業別ルーブリックおよび成績評価分析表示システムの普及**により、授業設計と成績評価ガイドラインを実質化し、授業改善
 - **学士力および就業力の可視化結果を踏まえ**、学生 IR の観点から学生の学修行動・生活行動を分析して改善課題を抽出し教育改善

● センター長より一言

活動の推進母体は、平成 28 年度より高大接続・全学教育推進センターに改編されました。当センターは、大学教育の質的転換、及び入学選抜方法の改善のための学生行動調査等を重視するインスティテューショナル・リサーチ（本学では「学生 IR」と呼びます）の推進を基に、全学教育の企画、調整、実施、改善を図り、もって国際通用性のある本学教育の質保証に資することを目指しています。高校と大学の円滑な接続から全学教育の実施、学修支援に努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

高大接続・全学教育推進センター長 梅澤 修

● 連絡先

横浜国立大学 大学教育再生加速プログラム支援室
TEL：045-339-3141 FAX：045-339-3100
E-mail：ynu-ap@ynu.ac.jp

北九州市立大学

社会で求められる人材を育成する 教育プログラムの整備を目指して

● 学校の特徴

北九州市立大学は、昭和21年(1946年)に創設された小倉外事専門学校を前身とし、現在では、学士課程5学部・1学群、大学院課程4研究科からなる総合大学に至っています。産業技術の蓄積、アジアとの交流の歴史及び環境問題への取組といった北九州地域の特性を活かし、地域に根ざし、選ばれる大学へと成長するため、「地域」「環境」「世界(地球)」をコンセプトに、豊かな未来に向けた開拓精神に溢れる人材を育成しています。また、地域の産業、文化及び社会の発展並びにアジアをはじめとする国際社会の発展に貢献することを目指し、北九州市が取り組む地方創生にも積極的に協力しています。



● 活動実績

本学では、3層構造の学修成果の可視化の観点から以下の取組を実施しています。

■第1段階 (人材育成の基本的事項の整備)

- 3つのポリシーの体系的な整理・改善
- AP: アドミッション・ポリシー
- CP: カリキュラム・ポリシー
- DP: ディプロマ・ポリシー

■第2段階

(学修成果の可視化によるPDCAサイクルの実行)

- ①学修行動調査(授業外学修時間、授業全体の満足度)の実施
- ②「事前・事後学修時間」と「自主的学修時間」の考え方の整理
- ③「北九大教育ポートフォリオシステム」の開発

学業成績だけでなく実践活動経験等も一元管理できる仕組みを構築し、学生が自らの学修到達度を測定・確認できるポートフォリオ等を整備しています。

■第3段階 (実践型教育における成長の可視化)

- ①学生の成長を捉える評価指標『実践活動力』の開発と測定調査
- ②学生評価システムとしての『多面評価』の試行
- ③社会波及効果の測定

学生による地域活動の社会波及効果について、第I階層(協働者:学生と共に活動を協働する地域の方)へのヒアリング、第II階層(参加者:イベント来場などで活動に関与する方)へのアンケート、第III階層(一般の方:北九州市民)へのウェブ調査、の3階層に分けた調査を試行しています。

■その他

学生活動実績認定シート(仮称)の開発、発行準備



● みえてきた課題

■教育の質保証について

学生が卒業までに達成すべき質保証を的確に行うために、ディプロマ・ポリシーに基づいて測定される学修到達度の妥当性を高め、そして、可視化により得られたデータを教学マネジメントの改善に反映させることが求められています。

■組織運営について

本 AP 事業を継続的に実施していくために、学修に関する各種多様なデータを効率的に収集・管理する体制の整備に取り組む必要があります。

■学生の自己省察を促進する環境の整備について

「北九大教育ポートフォリオシステム」を活用し、学生の自己省察を促進させる仕組みづくりを全学的に展開していることが喫緊の課題です。

■社会波及効果の測定について

実践型教育における社会波及効果の測定について、そのねらいをより具体的にした上で測定指標と測定方法を確立し、測定と改善のプロセスをどのように運用していくのか慎重に検討する必要があります。



● 今後の取り組み

学修成果を可視化し、得られたデータを教育改善に活かしていくことで、実社会における有用な知識とスキルを身に付けた社会で求められる人材を育成する教育プログラムの整備を目指します。

■学修成果の可視化に関する環境の整備

「北九大教育ポートフォリオシステム」を全学的に展開し、学生が自らの学修到達状況を把握し、その後の効果的な学修につなげ学生が自己研鑽できる環境を整備します。

■実践型教育プログラムにおける評価の仕組みの確立

- ①現行の測定結果データを踏まえた学生評価指標の改善と、多面評価と学生へのフィードバックによって自己省察と成長を促すシステムの確立を目指します。
- ②学生の地域活動の社会波及効果の測定指標と測定方法を確立し、実践型教育プログラムの着実な改善につなげます。

■学生活動実績認定シート(仮称)の発行

大学生活における学生活動の実績について、大学が認定する仕組みを構築します。


● AP推進室長より一言

学生の主体的な学修や課題発見力などの育成のために、「学生の成長過程の可視化」を図ることが重要であると考えています。そのために本学では、実践型教育を通じた学修による「学生自身の成長」と「社会の成長(社会波及効果)」を可視化する取組を行っており、学生が地域活動を通してどのように成長したか、またそれがどのように社会に影響を与えているかを把握していきます。これらの可視化を図るためには、学生自身が自己の学修を振り返ることを促し、既存の教育システムと根気よく調整を繰り返すプロセスが重要であり、そのことが大学の成長に繋がると信じています。

● 連絡先

北九州市立大学 大学教育再生加速プログラム推進室
TEL: 093-964-4017 FAX: 093-964-4017
E-mail: ap-theme2@kitakyu-u.ac.jp

■テーマⅡ「学修成果の可視化」採択校一覧

 独立行政法人国立高等専門学校機構
阿南工業高等専門学校
徳島県阿南市見能林町青木 265
<http://www01.anan-nct.ac.jp/>

 Tokyo Woman's Christian University
東京女子大学
東京都杉並区善福寺 2-6-1
<http://office.twcu.ac.jp/>

 学校法人 富山国際学園
富山短期大学
富山県富山市願海寺水口 444
<http://www.toyama-c.ac.jp/>

 企業がつくったものづくり大学
新潟工科大学
新潟県柏崎市藤橋 1719
<http://www.niit.ac.jp/>

 **八戸工業大学**
Hachinohe Institute of Technology
青森県八戸市妙字大開 88-1
<http://www.hi-tech.ac.jp/>

 新たな「口腔医学」の創設と育成を目指す
福岡歯科大学
FUKUOKA DENTAL COLLEGE
福岡県福岡市早良区田村 2-15-1
<http://www.fdcnet.ac.jp/>

 **横浜国立大学**
YOKOHAMA National University
神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1
<http://www.ynu.ac.jp/>

 **北九州市立大学**
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU
福岡県北九州市小倉南区北方 4-2-1
<http://www.kitakyu-u.ac.jp/>

■お問い合わせ

学修成果の可視化あり方検討会議 事務局
北九州市立大学 大学教育再生加速プログラム推進室
〒802-8577 北九州市小倉南区北方 4 丁目 2 番 1 号
TEL : 093-964-4017 FAX : 093-964-4017
URL : <http://ap-theme2.jp/>